日本文化论教程

五十嵐 昌行 著

山东大学出版社

日本文化論教程

五十嵐　昌行　著

江苏工业学院图书馆
藏书章

山东大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文化論教程:日文/(日)五十嵐 昌行著.—济南:山东大学出版社,2000.8

ISBN 7-5607-2162-1

Ⅰ.日… Ⅱ.五… Ⅲ.日语-高等学校-教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 40052 号

山东大学出版社出版发行

(山东省济南市山大南路 27 号 邮政编码:250100)

山 东 省 新 华 书 店 经 销

济南申汇印务有限责任公司印刷

850×1168 毫米 1/32 9.625 印张 1 插页 250 千字

2000 年 8 月第 1 版 2000 年 8 月第 1 次印刷

印数:1—2000 册

定价:25.00 元

序

五十岚昌行先生在山东大学外国语学院执教多年，先后担任“日本文化史”、“日语写作”等课程，并根据教学需要编写了这部《日本文化论教程》。今借付梓之机，对五十岚先生为山东大学日语专业的教学和教材建设付出的辛勤劳动和无私贡献表示衷心谢意。

在这部教材中，作者基于长期探索和多年海外生活的体验，将日本文化置于世界文化的大背景下，就日本的哲学、文学、科学技术、美术、文艺、社会结构、生活习俗、思维方式、道德规范等，分34个专题，分别进行了论述；同时努力兼顾了结构上的完整和专题之间的有机联系，从而使学习者、阅读者能够比较全面地了解到日本文化的发展轨迹、现今状况及其主要特色。

诚然，文化现象是丰富多采的，它所蕴藏的内涵极其复杂。要对日本文化的每一个具体方面都作出准确的判断和概括，绝不是一件容易的事情。对于书中的某些观点，读者也许会有不同看法，甚至作者随着时间的推移自己的认识也会发生变化。相信大家在使用、阅读这部教材时，能够在思考中获取自己需要的知识和信息。

高文汉

2000年4月18日于山东大学

謝　辞

この拙い教科書の出版に当たり，ご高配を賜りました山東大学教授高文漢先生始め，蔣魯生先生，劉淑梅先生，陳紅先生，宋凱先生他日本語科の先生方に心から深く感謝を申し上げます。また，「至れり尽くせり」の山東大学生活でお世話になりました山東大学外事処の張慶齢先生他外事処並びに山東大学の皆様方に厚くお礼申し上げます。

また，執筆準備の段階から励ましを賜りました財団法人日中技能者交流センター常務理事の古川恵夫先生に改めて感謝を申し上げます。

なお，招聘を賜った中国国家外国専家局の皆様，私を派遣してくださった財団法人日中技能者交流センター理事長槇枝元文先生他センターの皆様に謹んで感謝を申し上げます。

また，不肖の弟子として，「まだ，こんなものを書いているのか」としかられそうですが，恩師東京大学名誉教授・明治大学教授・故土屋喬雄先生の学恩に感謝し，ご霊前に謹んで拙著をささげます。

拙著出版に際し，校正を助けて頂いた山東大学教授劉淑梅先生，製本でたいへんお世話になった山東大学出版社の宋雲峰先生、孫秀英先生に改めて深く感謝とお礼を申し上げます。

最後に，生前中国にゆかりの深かった亡き父母の霊前にこの拙著をささげ，併せて，1994 年以来，山東大学赴任に際し同伴者として，この教科書出版に協力を得た妻ミツと，日本の留守宅に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いる娘康子、もも子、西山浩美、さよ子に感謝の意を呈します。

2000年の年頭に当たって詠む

新(あたら)しき年改(としあらた)まり　外国(とつくに)に
天津(あまつ)　国津(くにつ)　の神(かみ)説(と)く我(われ)は

2000年3月2日
山東大学にて
五十嵐　昌行

出版目的と執筆方針

（出版目的）

私は，1994 年から，中国国家外国専家局の招聘で日本の財団法人日中技能者交流センターからの派遣により，山東大学に赴任しました。このセンターは1986 年に，日中の友好と経済協力推進のため，労働団体，経済団体，福祉団体の協力によって設立され，日本政府委託事業や中国技能研修生受入事業等を推進しています。

私は，1995 年から，「日本文化」の講座を担当することになりましたが，日本でも，放送大学用の『日本文化論』という，1回の講義が45 分間で，15 回分用のテキストがある他は，「日本文化論」の教科書は見当たりません。そこで，いろいろな資料のコピーを学生に配り授業をしました。しかし，学生には予習や復習の際，たいへん不便をかけました。

そこで，やむなく，私のお粗末な授業を，できるだけ，そのまま教科書にしました，そのため，授業を思い出して，学生の復習を容易にすることも考え，授業中の余談や脱線も，私は恥を忍んで活字としました。

弁解がましいのですが，十分研究した後で，多少とも自負できる教科書を出版したかったのですが，このような教科書が現状では無い以上，やむなく出版しました。未熟な授業の実態をさらけ出すことになり，私としては慚愧にたえませんが，もっと，

まともな教科書が出るまでの，捨て石のつもりで，あえて出版しました。

「日本文化」理解のために，この教科書が，少しでもお役に立てば，私としては，こんなうれしいことはございません。

（執筆方針）

学生の進路が中国政府機関や大学院進学で，日本言語，日本文学，日本文化，日本社会等の専攻者が多いことから，そのような進路の基礎に相応しいものになるよう心掛けました。

そのため，「日本文化」に関したことを散漫に取り上げることを避け，できるだけ体系的な理解が得られるように努めました。また，大学院の入学試験問題に出題された事項も考慮して取り上げました。そのため，煩雑になりますが参考文献も示しておきました。内容については，最近の学問的成果に基づいた説明を心掛けましたが，非力な私のため，各テーマについて多くの問題となる課題が残りました。これについては，今後充実を図りたいと考えたいます。

この教科書は，考えてみますと，日本の一般読者の方にとっても，「日本文化」のまとまった本が無いので「読み物」になるのではないかと存じますが，飽くまで，実際の授業に使用するため出版するものです。

各学期の授業回数を17回分とし，毎回の授業の実質時間を100分間と予定しました。そのため各回共，教科書の字数がほぼ同じような分量になるようにしました。その基準は，聴いて分かりやすい日本語の早さを，漢字仮名交じり文で，1分間200字程度としました。

そして，この授業過程実質100分間の時間配分は，問題提起等の導入部分を約20分間，展開部分は，教師の講義を30分間余り，それに関する補足説明と質疑を約20分間，残りの時間を，総

括・課題提出等の終結部分としました。従って，この教科書は教師の講義約30分間用のものです。

また，授業も教科書も無味乾燥では学習意欲を喚起しないので，下書き原稿を使った実際の授業の中で，余談や脱線して話したことも，テープ起こしで，できるだけそのまま載せることにしました。

この教科書の使用方法

この教科書の内容編成は,実際の授業の進度に対応した順序にしました。第1学期の第1回目の授業は「A1」とし,第2回目は,「A2」として,以下同じようにしました。また,第2学期の第1回目の授業は「B1」とし,以下同じです。

毎回,授業の導入部分として,(質問)を設けました,学生二,三人に問題を提起して発言してもらいます。

次に,授業展開では,教科書内容を教師や学生に読んでもらいます。この分量は,ゆっくり話す分かりやすい日本語で30分余りのものです。その後,内容に補足や質疑を予定しています。

総括の後,(課題)を設けてありますので,学生は原稿用紙を用いて,リポートを提出してください。

各学期17回分で,年間34回分の授業用になっています。

この大(だい)それた名のこの本は,「人を笑わせる言い方」をすれば,大上段に構えて書かれた「日本文化論」のまとまった本としては,もしかすると,この本が世界で初めての本かもしれません。「日本文化論」構成の基本的観点は正しいと確信しますが,内容は,私の未熟な研究のためと講義時間の制約とで,不十分なところが多いと思います。したがって,この本を利用される皆様は,煮るなり・焼くなり,ご自由に料理されて,ご活用ください。そして,忌憚(きたん)のない,ご助言やご教示を心からお願い申し上げます。

私にとって,この本は,冥途(めいど)への愚者(ぐしや)の土産(みやげ)のようなものです。

目　次

序 …… 高文漢
謝　辞 …… 五十嵐 昌行
出版目的と執筆方針 …… (1)
この教科書の使用方法 …… (1)

A1　「文化」の意味と「日本」の定義(文化概念) …… 1
A2　「日本文化」の研究(研究の対象と方法) …… 9
A3　「日本文化」研究の状況(日本文化論の動向) …… 16
A4　「応仁の乱(15 世紀)」以前の日本経済(日本文化の基盤・1) …… 24
A5　安土桃山時代(16 世紀)の日本経済(日本文化の基盤・2) …… 33
A6　江戸時代(17 世紀～19 世紀半ば)の日本経済(日本文化の基盤・3) …… 40
A7　明治維新後(19 世紀後半～20 世紀半ば)の日本経済(日本文化の基盤・4) …… 49
A8　第 2 次大戦敗戦後(20 世紀後半ば～20 世紀末)の日本経済(日本文化の基盤・5) …… 58
A9　日本の「しょう油」(日本人の生活・1) …… 66
A10　日本の「畳」(日本人の生活・2) …… 76
A11　日本の「浴衣」(日本人の生活・3) …… 85

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

A12　日本の祭「祇園祭」(日本社会の結合原理・1)…… 94
A13　日本の「陳情」(日本社会の結合原理・2) …… 103
A14　「明日は明日の風が吹く」(日本人の生活感情)
…… 113
A15　「結婚しなくてよい」(日本人の世代意識)…… 121
A16　「出る杭は打たれる」(日本人の思考個性・1) … 130
A17　「ありのまま,他人の目,勘」(日本人の思考
個性・2)…… 139

B1　「持ちつ持たれつ,水いらず」(日本の思想)…… 147
B2　天台本覚論(日本の哲学・1)…… 155
B3　経営者の「社会的責任」(日本の哲学・2)…… 163
B4　先祖信仰,天津神々・国津神々(日本の宗教)…… 171
B5　清き明き心・信頼(日本の道徳) …… 180
B6　「は」と「が」(日本の言語・1)…… 188
B7　「我慢」と「申します」(日本の言語・2)…… 197
B8　『古事記伝』(本居宣長)(日本の学問・1)…… 206
B9　ノーベル賞・「抗体遺伝子の構造」(利根川進)
(日本の学問・2)…… 214
B10　海外新技術の移植と日本的培養(日本の科学
技術・1)…… 223
B11　環境防衛「日本型」の確立(日本の科学技術・2)
…… 232
B12　『源氏物語』(紫式部)(日本の文学・1) …… 240
B13　『明暗』(夏目漱石)(日本の文学・2) …… 250
B14　浮世絵「名所江戸百景」(歌川広重)・箏曲「春海」

(宮城道雄)(日本の美術・音楽)…… 259
B15 『風姿花伝』(世阿弥)能(日本の芸能・1) …… 267
B16 「寿曽我対面」歌舞伎(日本の芸能・2) …… 275
B17 千利休(本名・田中与四郎)茶道(日本の総合芸術)
…… 284

著者簡歴…… 292

A1　「文化」の意味と「日本」の定義（文化概念）

（**質問**）「日本文化」について，あなたの知っていることを話してください。

(1)「文明」と対比して遣われている「文化」という言葉

「日本文化」というと，「茶道・歌舞伎」などと，自明のことのような返辞がすぐ返ってきます。もし，私が聞かれたら，考え込んでしまうでしょう。日本の高校生などが参照する，児玉幸多編『日本史年表・地図』というのがあります。この年表で「文化」に分類されているものを見ますと，「教育，思想・学術，科学・技術，文学，美術・文化財，芸能，スポーツ」が「文化」欄に含まれています。また，総務庁統計局編『日本の統計 1997 年版』を見ますと，「文化遺産」に区分されているものは，「絵画，彫刻，工芸品，書跡・典籍・古文書，考古資料，歴史資料，建造物，史跡・名勝・天然紀念物，重要無形文化財（芸能，工芸技術），民俗文化財　他」となっています。さらに，日本語を勉強する外国人のための英訳付テキスト，佐々木瑞枝『日本事情入門』を見ますと，「日本の文化」として，（伝統文化）に「歌舞伎，能・狂言，茶道，華道，書道」，（現代文化）として，「文学，音楽，美術，

映画」,(子ども文化)として,「ファミコン,マンガ,遊園地」が紹介されています。こう見てきますと,「何となく」日本の文化という時の範囲が分かりますが,これらの分類や区分の内容も違いますから,「何となく」分かったような気になるだけで,まだ,ぼんやりした感じです,このように,ぼんやり分かっていることを「観念」といいます。これが,学習によって,はっきり分かったことを「概念」といいます。

「日本文化」と聞かれて,戸惑うのは,遣う「言葉」がはっきりしないためです。ですから,「日本文化」という場合,まず,「文化」という言葉をはつきりさせなければいけません。つまり,「文化概念」について考えなければなりません。とりあえず,私は,手元にある久松潜一他編『国語辞典』を引いてみました。そうしますと,「(1)世の中が開け進むこと。(2)学問・道徳で,民を教え導くこと。(3)人間が本来の理想を実現していく活動の過程。その物質的所産である文明に対して,特に精神的所産の称。芸術・科学・道徳・宗教・法律など。」と出ています。念のため,「漢和辞典」の小川環樹他編『新字源』で「文化」を引いてみました。そうしますと,「(1)武力や刑罰を用いず,文徳で人民を教化すること。(説苑(ぜいえん))文化不改,後加誅。(2)人類の社会が野蛮から文明に進むこと。世の中が開けて,学問・芸術などが発展すること。文明開化。」とあります。

余談ですが,ここに出てきた「説苑」は,きっと皆さんの方がよくご存じかもしれません。そうです,前漢,劉向(りゅうきょう)の書いた本です。春秋時代,というと,この辺りの済南(チーナン[jìnán])や淄博(ツーポ[zībó])や曲阜(チユーフ[qūfù])などが最も関係の深い地域ですが,つまり,紀元前8世紀ころから紀元前5世紀ころになるでしょうか,そのころから漢代の初め,紀元前1世紀こ

ろまでの伝記や逸話を集めたもので教訓に富み，文学的にも高く評価されているものです。曲阜といえば，もう6年前になりますが，孔府の入り口で，私は，タバコの吸いがらを道に捨てて，係りのおばさんに罰金を取られました。何だか，孔子にしかられたような気がしました。

本題に戻りますと，『国語辞典』の(1)の意味と『新字源』の(2)の意味が，日本の19世紀後半，明治維新後に流行した「文明開化」と同じような意味であることが分かります。また，『国語辞典』の(2)と，『新字源』の(1)が同じ語源であることも分かります。そうしますと，『国語辞典』の(3)の意味が，何が新しいような感じがします。

余談ですが，日本の江戸時代にあった年号の「文化」，これは1804年から1817年までの時期ですが，ここの「文化」は，『国語辞典』の(2)や『新字源』の(1)の意味で遣われたように私は思います。

本題に戻りますと，私たちが「日本文化」という場合のように遣っている「文化」という言葉は，比較的新しい遣い方で，「文明」という言葉と対照的に遣われていることに気付きます。

(2)20世紀の初めに遣い出した「文化」という言葉

生松敬三「文化の概念の哲学史」によりますと，「文化」という言葉が今日遣っているような意味で遣われるようになったのは，「およその見当はまず大正期からと見て間違いあるまい」と述べています。つまり，20世紀の初めごろということになります。そして，この「文化」という言葉は「culture」ないし「Kultur」の訳語として遣われました。1886年，明治16年ですが，日本は領事裁判権を撤廃するなめ，法律を整備し，国民の

風俗や習慣を西洋風にした方が有利と考え，外国人接待の社交場として東京に鹿鳴館を設けました。いわゆる「鹿鳴館時代」と呼ばれる時期です。このころは，今日の「文化的」な意味としての言葉は「開化」といって，「文化」とは言いませんでした。作家の井伏鱒二が当時を回想した坪内逍遥についての文章の中で，「文化」という言葉は遣い慣れていなかったと書いているそうです。また，早稲田大学の片山伸教授が「culture」を「文化」と訳して自慢していた話もあります。井伏鱒二の早稲田大学在学期間は大正6年から大正12年まで，つまり，1917年から1923年までですから，やはり，20世紀の初めごろから，今日のような意味で遣っている「文化」という言葉が遣われるようになったことが分かります。しかも，ドイツ語の「Kultur」の訳語として「文化」という言葉が遣われ始めました。当時の桑木厳翼というような学者(哲学)がカント(Kant 1724～1804)の観念論哲学などの本を訳す時に「文化」とか「文化哲学」とか「文化価値(Kulturwert)」などと論文で訳して遣いました。つまり，「文化」という日本語は比較的「新しい言葉」なのです。

(3)人間の「生活の仕方」としての「文化」の意味

「文化」という言葉は，日本においては，第1次大戦前後に入ってきた新カント派の文化哲学の導入によるものだということです。

「文化」と日本語に訳された「culture」とか「Kultur」という言葉は，その語源はラテン語の「colere」などという言葉からきています。「colere」は「耕す」というような意味です。先程の『国語辞典』の(3)の意味で，「文化」と対比させて説明

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com